

オーストリア森林フォーラムin 東京

森林技術
MMタワーヤーダーの活用



1. 緑産株式会社について

“農業・畜産”向け機械の輸入販売に始まり、現在では“林業”“環境”“緑地”等 多様な分野の機械システムの販売を行い、今年創業50周年を迎えた。

“For a Green World” を基本テーマとし、
一貫して “**生物資源の循環利用による環境社会の構築**” のため
関連する様々な機械システムの販売を通して社会に貢献。

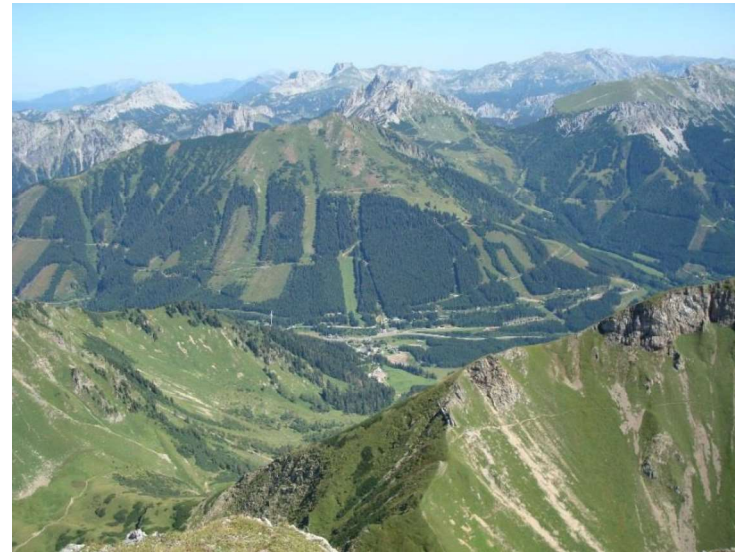
“**木質バイオマス利用**” 分野では、堆肥化利用機械に加え、2007年に国内では初の本格導入となる ドラム式チップパー の販売を開始、これら製品 **アクスター**や**ウッドハッカー**は、FIT制度の本格導入等による木質需要の高まりから、現在国内ではトップの販売実績。

本日より紹介するMMタワーヤーダーの生産拠点があるオーストリアシュタイヤーマルク州政府からは、複数のオーストリア企業との永年の功績を認められ、日本法人としては初の“ゴールド名誉勲章”を授与され、オーストリアとは単なる企業間の商取引の枠を超えた信頼関係を構築。

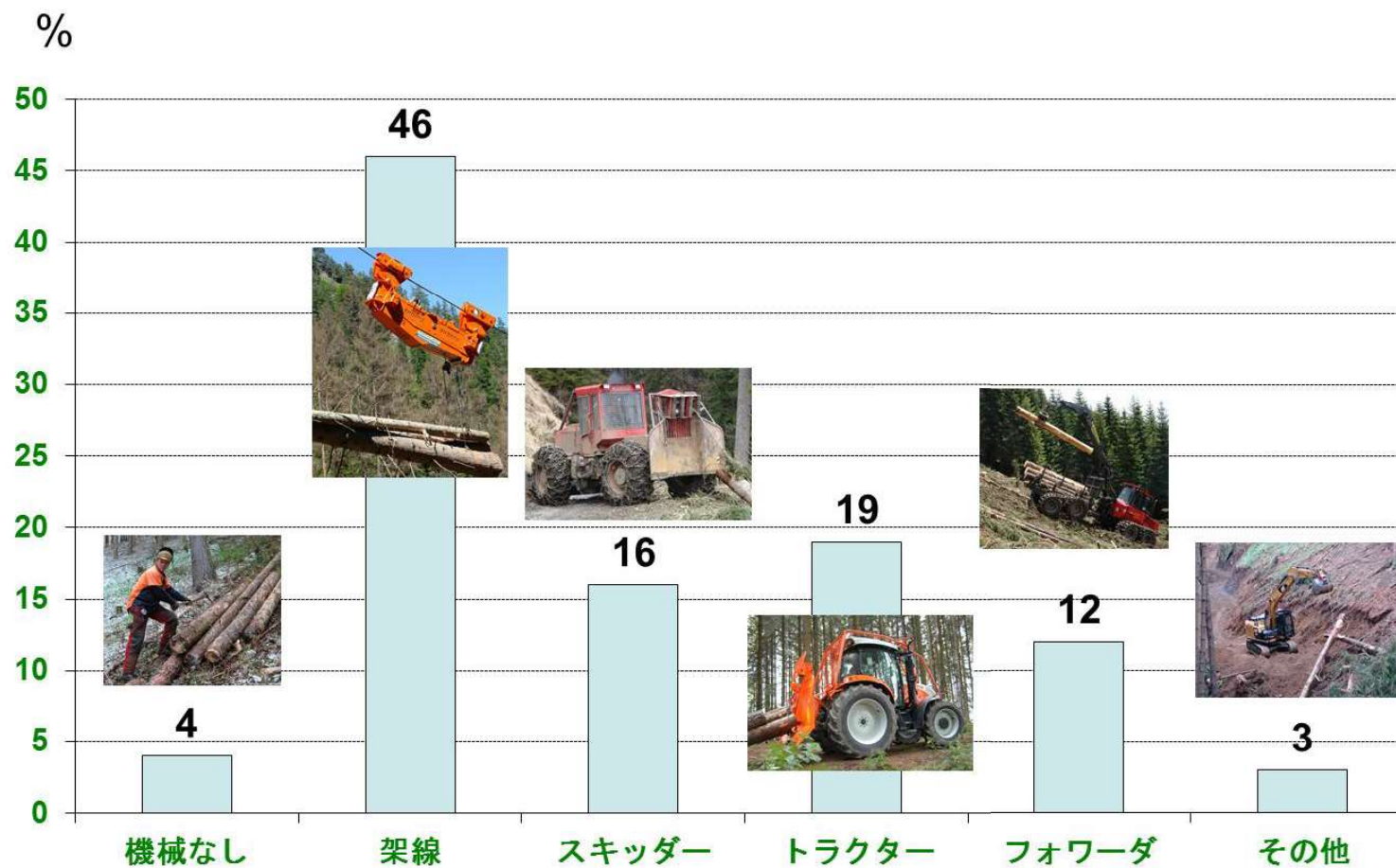
2. MMフォレストテクニク社について

① マイヤー・メルンホフ家と企業グループ

- ・ 200年以上の歴史を持つ、オーストリア最大の私有林所有者
シュタイヤーマルク州内に合計 32,000ha以上の林野を所有
 - 21,000 ha以上が生産林
 - 山林の平均勾配は 62% (約32°)
- ・ 年間180,000m³を森林から生産
 - トウヒ、モミ : 75%
 - カラマツ : 15%
 - ブナ、タモ、トネリコ : 10%
- ・ 約15,000人の従業員を持つ
企業グループ
 - 森林経営会社
 - 製紙会社、他



② MM社の集材作業方法の割合



年間生産量180,000m³の内、約46%がタワーヤーダーによる集材！

③ MMフォレストテック社について

自社で運用するため、1962年にヨーロッパ最初の牽引型スカイラインタワーヤーダーを開発。

現在も平均斜度30° のアルプス山麓の山林から 年間18万m³を出材し、10台のタワーヤーダーを自社で運用中。

開発と運用に当たっては、作業の“安全性” が最優先。

同業者のニーズに答えるため集材機械開発部門を分社化し、2007年にタワーヤーダー販売会社としてMMフォレストテック社を設立、現在は世界各地に輸出。

これまでの販売実績は、
180ユニット以上に上る。



④ MMタワーヤーダーシステムの最大の特徴

〔WFワンダーファルコン、SFシンクロファルコン、MMシェルパ〕

① 高い安全性

② 高い生産性

③ 自動化された簡単な操作

ご清聴ありがとうございました。

